資料-3(2)

～ 特定外来生物コクチバスから櫛田川の自然を守るための取り組み ～

櫛田川コクチバス生息環境マップ

令和7年3月
櫛田川自然再生推進会議

両郡橋付近の櫛田川
瀬と淵があり、早瀬はアユ釣り場として親しまれている

調査で捕獲されたコクチバス

櫛田川自然再生推進会議

櫛田川の良好な環境を保全・再生するため、平成25年度に櫛田川自然再生計画を作成し、「環境の連続性の再生」、「氾濫原・湿地環境の再生」、「川と地域とのつながりの再生」を実施するに当たり、地域住民、関係団体、学識者・有識者、行政機関が連携して活動を推進するためのことを目的に、『櫛田川自然再生推進会議』を平成27年度に設立しました。

この中で、アユ等回遊性魚類の縦断的連続性再生（魚道改良等）に関するモニタリング調査を実施していますが、平成27年度の調査において櫛田川でコクチバスが初めて確認されました。

コクチバスとはこんな魚

コクチバスは、もともとは北アメリカに生息するスズキ目サンフィッシュ科の魚で、湖沼や河川の中下流域に生息します。 低水温に対する耐性が強く、流水域にも適応できます。

強い動物食性を示す肉食魚類で、アユやハゼの仲間などの魚類やエビ・カニ類などの甲殻類、ヤゴなど様々な生物種を捕食しています。

繁殖期は、春～初夏で、水温が15度を超えると繁殖活動を始めます。産卵場所は、流れの緩やかな物陰などで、砂礫底に長径60cm程度のすり鉢状の産卵床を作り、オスが卵・仔魚を保護します。稚魚は自由遊泳できるようになると、産卵場を離れ流れの緩やかな河岸近くに分散し、成長するにつれて河川内の広い範囲を遊泳するようになります。

成魚の体長は、最大50cm程度まで成長し、7歳まで生息していた記録もあります。深場や物陰で越冬し、那珂川（栃木県）における調査では、越冬場所は深さ3m程度の水深であることが確認されています。

※1「だれでもできる外来魚駆除２、３」

繁殖期（4～6月）

流れの緩やかな浅瀬、障害物の近くで産卵する。

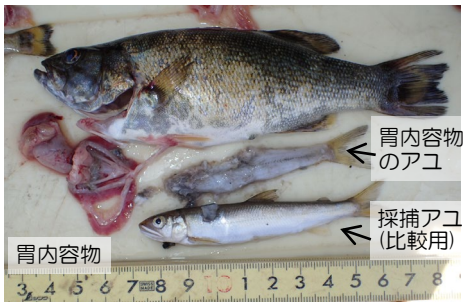
全長1㎝程度の仔魚

産卵床とコクチバスの仔魚（5月）

調査で捕獲した産卵親魚
（全長約40㎝）（5月）

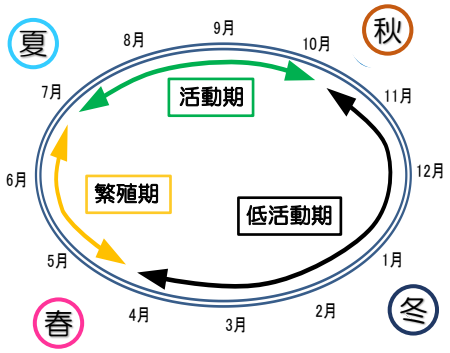
活動期（7～9月）

さまざまな環境を広範囲に動く。
瀬にも出現する。



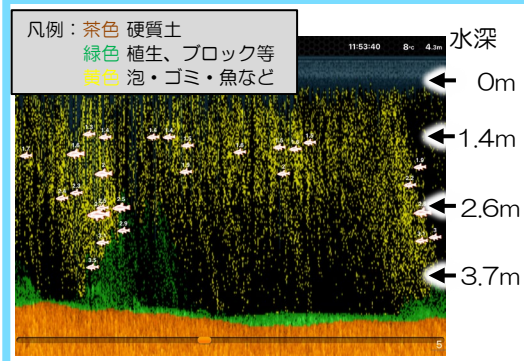
活動期のコクチバス胃内容物調査
（8月）

コクチバスの生活サイクル



低活動期（10～4月）

深場や護岸ブロックなどの物陰で生息する。



魚探による深場の調査結果（冬期）
※大型個体を識別して表示、魚種は不明

外来生物法とは？

正式には、「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」と言います。特定の外来生物による生態系、人の生命・身体、農林水産業への被害を防止することを目的としています。

特定外来生物とは？

もともと日本にいなかった外来生物のうち、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがあるものについて特定外来生物として政府が指定します。令和7年3月時点で162種が指定されており、魚類はコクチバスを含む26種が指定されています。

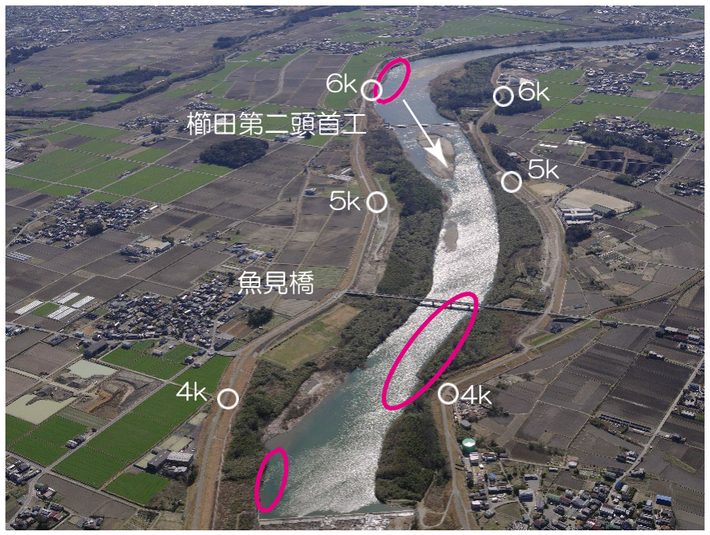
櫛田川コクチバス生息環境マップ（生息の可能性がある場所の位置図）　（河口～櫛田第二頭首工）

調査箇所の凡例
- 産卵確認箇所（H29～R6調査）
- 産卵の可能性がある環境を有する箇所（H30調査）
- 低活動期（10～4月）に集まりやすい深場

0　500　1000　1500m

【航空レーザー測量（H30.10.21撮影）による】

生息の可能性のある深場



低活動期（10～4月頃）にコクチバスが集まり易い深場や護岸ブロックの位置

●親魚を5個体を確認（R6.5）
・頭首工右岸魚道入り口付近

●親魚1個体確認（R6.5）
・頭首工右岸水叩き下流

採捕個体：体長422mm

4.2k付近左岸の深場

★産卵床の残骸確認（R5.5）
・水叩き下流の緩流速箇所
★産卵床残骸の確認（R6.5）
・頭首工水たたき部直下流の中州周辺

周辺状況

3.0k付近右岸の深場

5.2k付近

水際部に形成された砂礫河床の緩流部

★産卵床の確認（R4.5）
・頭首工上流の湛水域の砂礫堆積箇所
・親魚1個体
・稚魚1,000個体程度

周辺状況

6.2k付近右岸の深場

櫛田川コクチバス生息環境マップ（生息の可能性がある場所の位置図）　（櫛田第二頭首工～櫛田可動堰）

調査箇所の凡例
- 産卵確認箇所（H29～R6調査）
- 産卵の可能性がある環境を有する箇所（H30調査）
- 低活動期（10～4月）に集まりやすい深場

0　500　1000　1500m

【航空レーザー測量（H30.10.21撮影）による】

●親魚3個体、稚魚50個体程度を確認（R6.5）
・護床工下流の深場（産卵床も存在したと推定される）

親魚1個体
稚魚200個体
を確認（R4.5）

親魚1個体
稚魚1,000個体
を確認（R4.5）

★産卵床を6箇所確認（R6.5）　※R4、5も同様の箇所で確認
●親魚25個体程度、稚魚3,000個体程度を確認（R6.5）
・櫛田可動堰下流の左右岸水たたき部脇に存在するプール

●親魚2個体を確認（R6.5）
・護床工中央下流の砂礫が堆積するプール

6.2k 付近右岸の深場

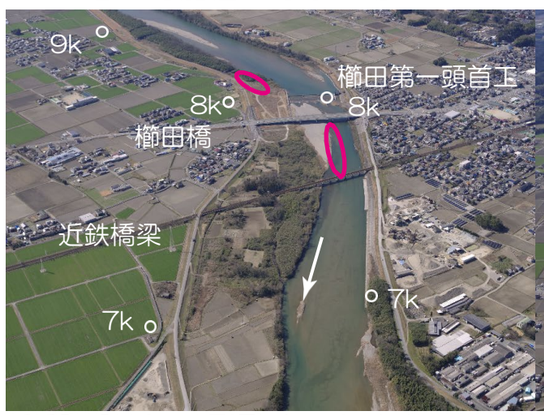
7.6k 付近左岸の深場

8.2k付近右岸の深場

9.5k 付近右岸の深場

11.0k 付近左岸の深場

生息の可能性のある深場



低活動期（10～4月頃）にコクチバスが集まり易い深場や護岸ブロックの場所

櫛田第二頭首工
櫛田第一頭首工
櫛田可動堰
井口中町（いぐちなかちょう）
清水町（しみずちょう）
櫛田町（くしだちょう）
豊原町（とよはらちょう）
高木町（たかきちょう）
早馬瀬町（はやませちょう）
山添町（やまそえちょう）
法田町（ほうだちょう）
朝長（あさおさ）
松阪市
多気町
櫛田川
近鉄橋梁
櫛田橋
祓川
佐奈川
5k
6k
7k
8k
9k
10k
11k
溜水（ていすい）
漕代（こいしろ）

櫛田川コクチバス生息環境マップ（生息の可能性がある場所の位置図）　（櫛田可動堰～櫛田川水管橋）

★産卵床の残骸を確認(R6.5)
- 右岸よどみの砂礫堆積箇所
- 稚魚500個体程度

★産卵床の残骸を確(R5.5)
- 右岸岩盤周辺
- 稚魚1,000個体程度
  (オオクチバス交じり)

●親魚２個体の確認(R4.5～6)
- 稚魚２万個体程度

11.0k付近左岸の深場

★産卵床を確認(R4.5)
- 左岸ゲート下のプール
  親魚4個体
  稚魚1,500個体

★産卵床を確認(R5.5)
- 左右岸ゲート下のプール
  親魚4個体

15.0k付近左岸の深場

★産卵床(形成中)を確認(R6.5)
- 流心付近の大礫堆積箇所
- 親魚1個体

★産卵床の残骸を確認(R5.5)
- 水際の岩盤周辺
- 親魚2個体
- 稚魚500個体程度

●親魚7個体確認(R4.5)
- 稚魚4,000個体程度

櫛田可動堰湛水域で捕獲されたコクチバス
(H29.12)

14.4k付近右岸の深場

13.6k付近

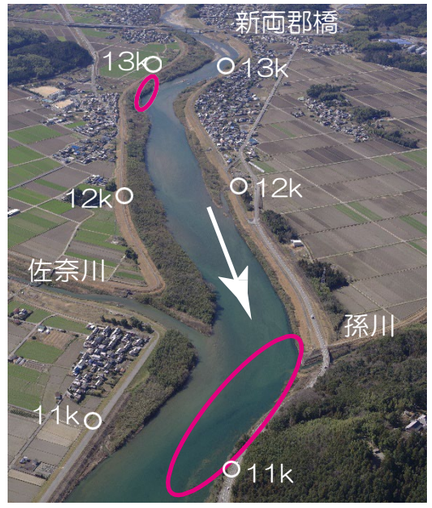
R2に、8/1解禁後の網漁で40㎝ぐらいのコクチバスを確認
(地域の方からの情報)

調査箇所の凡例
- 産卵確認箇所（H29～R6調査）
- 産卵の可能性がある環境を有する箇所（H30調査）
- 低活動期(10～4月）に集まりやすい深場

0　500　1000　1500m

【航空レーザー測量（H30.10.21撮影）による】

生息の可能性のある深場



低活動期(10～4月頃)にコクチバスが集まり易い深場や護岸ブロックの位置

櫛田川コクチバス生息環境マップ（生息の可能性がある場所の位置図）　（櫛田川水管橋～伊勢自動車道）

★産卵床を確認(R4.5)
- 岩盤の窪み
- 産着卵800粒程度

●親魚1個体確認(R4.5)
- 草が茂る岩盤内ワンド
- 稚魚1500個体程度

★産卵床を形成中(R6.5)
- 流心付近の大礫底
- 親魚１個体確認

●親魚1個体確認(R4.5)
- 稚魚300個体程度

★産卵床の残骸確認(R6.5)
- 水際の岩盤の間の緩流域
- 親魚１個体確認
- 稚魚400個体程度

★産卵床の残骸確認(R5.5)
- 水際の岩盤の隙間
- 稚魚100個体程度

●稚魚500個体程度(R4.5)

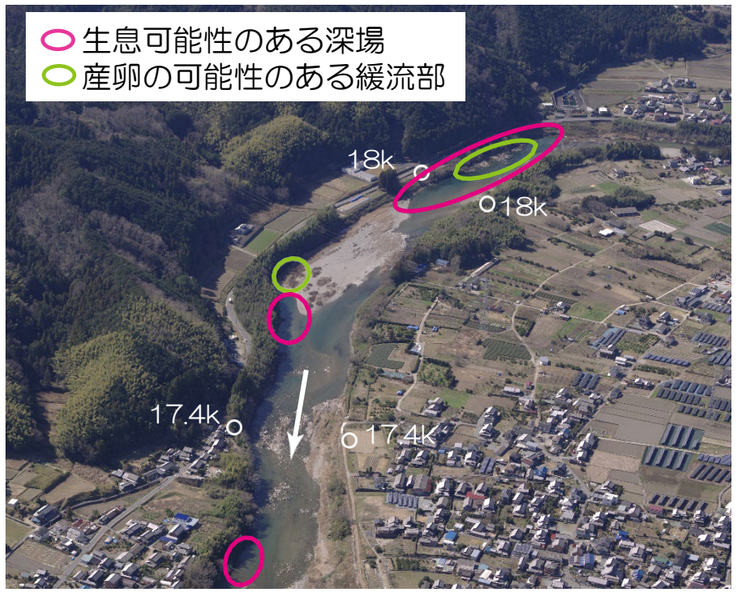
18.0k付近右岸の深場

17.0k付近

R2に庄付近で10cm前後のコクチバスが投網漁で何十匹と捕れた（地域の方からの情報）

16.4k付近の深場

生息可能性のある深場
産卵の可能性のある緩流部



この区間は、低活動期(10～4月頃）にコクチバスが集まり易い深場と産卵場となる緩流部が隣接して分布。

調査箇所の凡例
- 産卵確認箇所（H29～R6調査）
- 産卵の可能性がある環境を有する箇所（H30調査）
- 低活動期(10～4月）に集まりやすい深場

0　500　1000　1500m

【航空レーザー測量（H30.10.21撮影）による】

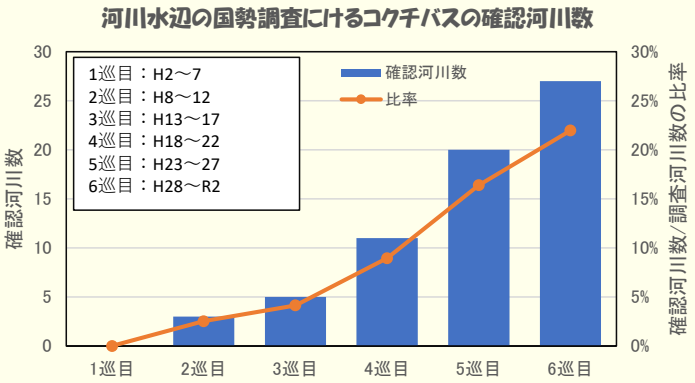
N W E S

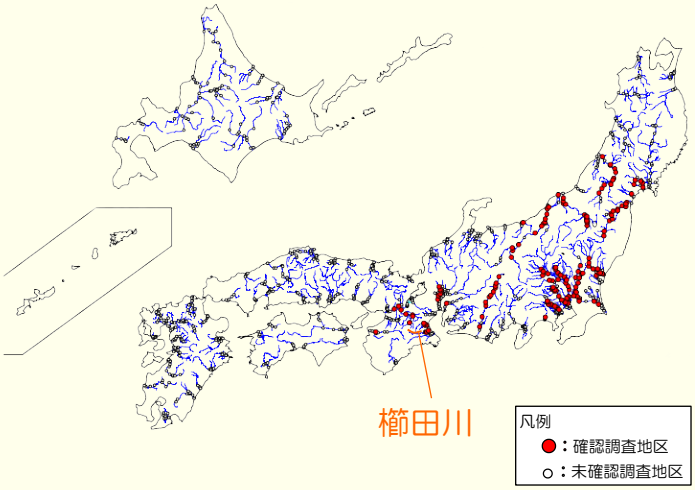
コクチバスの確認状況

全国での確認状況

国土交通省で実施している「河川水辺の国勢調査」では、確認河川数は年々増えており、調査河川に対する確認された河川の割合も6巡目には22%に達しています。

三重県内の河川では、櫛田川、雲出川、木津川で確認されています。





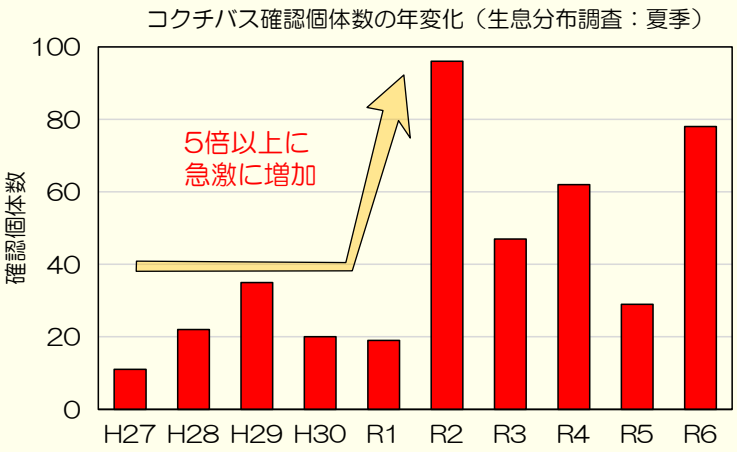
河川水辺の国勢調査におけるコクチバス確認箇所
（6巡目調査：H28～R2）

櫛田川での確認状況

自然再生調査の一環で魚類調査(生息分布調査)を毎年夏季に実施していますが、平成27年度の調査でコクチバスが初めて確認されました。その後は毎年確認されており、確認個体数は令和2年度に大幅に増加しました。

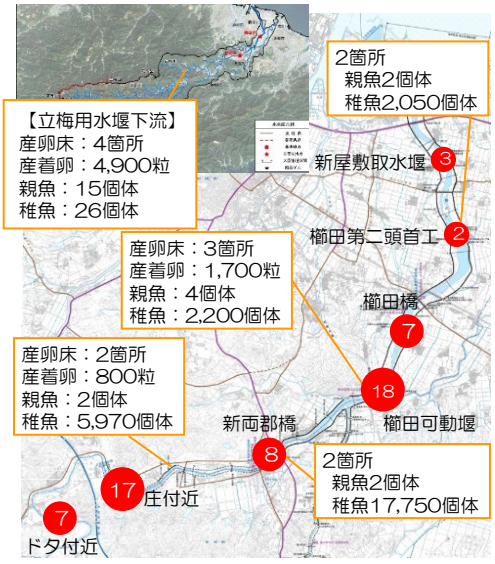
平成29年度の調査において、産卵時期の春季にコクチバスの産卵場を確認しました。このため、コクチバスの産卵環境となりそうな場所を平成30年度に調査し、令和元年度から令和6年度はポイントを絞った調査を産卵期の5月に実施しました。

令和6年度調査では、11箇所の産卵床、親魚64個体、稚魚約1.2万個体、産着卵3,500粒を確認しました。



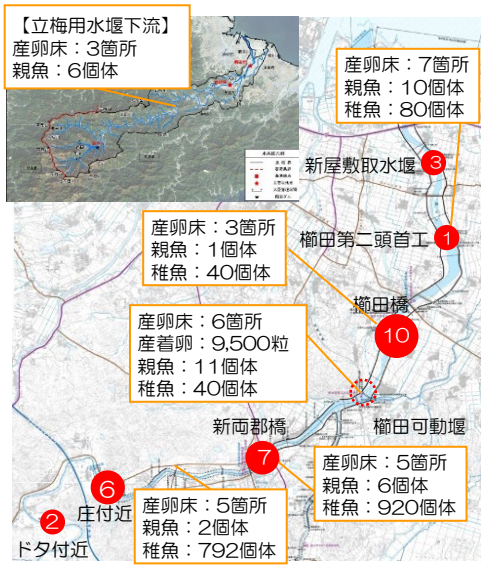
近年のコクチバスの生息場・産卵場の経年変化

R4



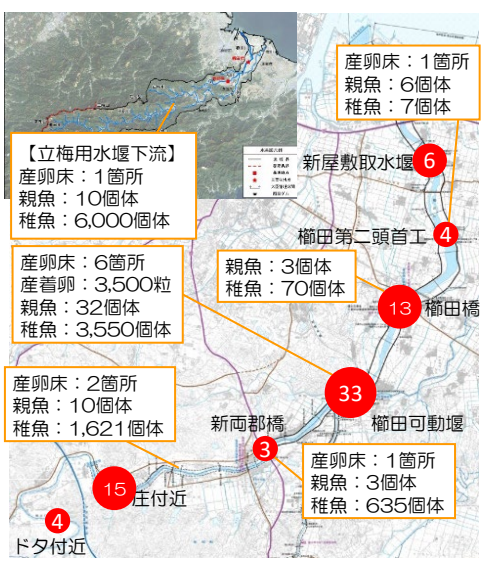
生息分布調査：７地点
産卵場調査　：15箇所で確認

R5



生息分布調査：７地点
産卵場調査　：29箇所で確認

R6



生息分布調査：７地点
産卵場調査　：11箇所で確認

※生息分布調査（●）は夏季（8月）に１回実施、産卵場調査（□）は春季（5月）に1回実施

コクチバスから自然環境を守るために

外来魚対策コア会議における取り組み

櫛田川においてコクチバスの生息拡大防止に向けて、地域一体となった取り組みを進めていけるよう、「櫛田川自然再生推進会議 地域連携専門部会外来魚対策コア会議」を平成29年度に立ち上げて取り組みを進めてきました。

コア会議では、三重県内水面魚場管理委員会に対し、コクチバスを含むサンフィッシュ科魚類の再放流禁止に向けた委員会指示を出してもらえるよう、意見書を令和6年3月に提出しました。

外来魚対策コア会議における取り組み

他河川での対策事例紹介

コア会議メンバーとの共同による産卵場調査

大型刺し網による捕獲試験

みなさんでできる取り組み

櫛田川でこれ以上コクチバスが増えると、昔から櫛田川で見られた魚が少なくなるおそれがあります。
櫛田川の生態系への影響を拡大させないために、地域のみんなで協力して取り組んでいく必要があります。

○多くの人の参加によるバス釣りでの対策

- 釣りによりコクチバスを捕りましょう。（餌釣りが良く釣れるようです）
- 捕まえたコクチバスは再放流せず、拡大防止への協力をお願いします。
- コクチバスは白身でふっくらした食感で、揚げ物にぴったりの食材です。食べて減らしましょう。ただし、生きたまま持ち帰るのは法律で禁止されていますので、注意して下さい。

○生息場、産卵場の情報提供について

- コクチバスの生息拡大防止の取り組みを実施する上で、コクチバスの生息場や産卵場を把握することが重要ですが、これまでの調査では産卵場も十分に把握できていないと考えられます。
- コクチバスの生息場（深場等）や産卵場について、日頃から櫛田川を利用されている皆さんがお気づきの場所があれば、情報提供をお願いします。

［コクチバスの産卵、生息に関する写真や情報はこちら ⇒ E-mail：cbr-miechousa@mlit.go.jp］

コクチバスの産卵場の様子

多くの仔魚の群れと守っている親魚が確認できます

これまでの調査で産卵場が確認された場所（代表例）

露岩部のワンド状の水際の礫に産卵

流れが弱い淵では河床を掘って、露出した礫に産卵

流れの弱い浅瀬では大きな石などの脇の礫に産卵

河川域でのコクチバス対策に関する参考文献：
※1「だれでもできる外来魚駆除２」、「だれでもできる外来魚駆除３」 水産庁国立研究開発法人 水産研究・教育機構 全国内水面漁業協同組合連合会
※2「河川における外来魚対策の事例集」 平成25年12月　国土交通省 河川環境課（※1、※2はホームページで公開されています）

櫛田川自然再生推進会議　地域連携専門部会外来魚対策コア会議
事務局：国土交通省　三重河川国道事務所
問い合わせ先：三重河川国道事務所　流域治水課
TEL：059-229-2216　FAX：059-229-2257　E-mail：cbr-miechousa@mlit.go.jp
R7.3発行

注）自然再生調査において捕獲したコクチバスは、法に基づき適切に対応をしています。